

---

# ゴブ伝

UGoui

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ゴブ伝

### 【Nコード】

N2104B

### 【作者名】

UGou i

### 【あらすじ】

ここに、成功本のみを読み歩く男がいた。彼は成功論を読むことこそが成功への近道であると信じていたし、またそれ以外の成功のための努力もしなかった、その男が選んだ結論、それが渡米であったのだ

## 成功論信者の物語

### ゴブ伝 序文

ゴブは、誰よりも大きな夢と、野望と、ビジョンとアイデアを持って渡米した。彼は窮屈な島国が嫌になって飛び出してきた、と本人は言っている。

私から見るに、彼が成功するに足りない物は、わずか三つであった、一つめは教養、二つめは知能、三つ目は努力であった。

ゴブという名の由来は、本当のところ誰も知らない、マサユキなら Masa、ヨシノリなら Yoshi、というように呼びやすいあだ名をアメリカ人の前で名乗ることは良くあるのだが、運悪く彼の前に名乗った日本人の名前は、ゴジョウジ、だったのだ、彼は覚えて貰いやすいようにジョージと名乗った。ゴブの目が輝いた、彼の決して明晰ではないが判断だけは速い頭脳は、以下の結論を見いだしたのだ。

ここでは自分と違う名前が名乗れる　それがアメリカンネームになる　格好のいい名前が名乗れる

そして彼は名前を聞かれてから5分間ほど黙り込み、皆が不思議そうな顔をしている前でついに軽い口をぽっかり開けて高らかに宣言した。「俺はゴブだ」 (I am a GOB)

彼の良いところは、決して失敗を恐れないところであり、悪いところは失敗に気付かないことであった。人の名前に冠詞をつけるという文法上の些細な問題は、たちどころにわき起こったその全く日本

人らしくない名前の由来についての疑問にかき消された。その場に居合わせた面々、といつても7割語学留学の日本人で、他がその他アジア人であったが、一樣英語の練習のために皆一樣に英語で彼に質問した。

だが、彼らも彼も、英語で意思疎通が出来なかったもので、山田という学生が日本語で尋ねた。ゴブは答えた、グレート、オブ、ブラザーの略らしい。あまりに意味不明な単語の羅列であった。その後も幾人もの人間が名前の由来について彼に尋ねたが、ゴブは毎回違う単語を並べたので、本当のところは誰も知らない。ただ解ることは、渡米当初はグレートとオブとブラザー程度の単語しか知らなかったということであり、その後彼は新しくGもしくはOあるいはBで都合の良い単語を見つけるとすぐに彼の名前の由来は変わったのだ。

ゴブは、すでにロサンゼルス空港に降り立った瞬間から、アメリカンドリームを掴んだあるカリフォルニア大学バークレー校卒の実業家になっていた。彼の脳裏に、高校までの学生生活を通して唯一読んだ文字だけの本であったある自伝がよみがえった、その自伝の著者は、ある電機メーカーを創業し、今や大企業として名をはせているどこかの企業だそうだ。

突如として、彼は不安に襲われた、自分はうまく自伝を書けるのだろうか？という重大な問いに、である。

まずは、タイトルを決めなければならない。孔子は深い知識と思索の元に名が正しくなければ中身が正しくならないと言ったそうである。そして魯迅は阿Q正伝において滑稽な存在を見事に描くために「正伝」という名前を深い思慮と教養の元を選んだ。

ちなみに、その社長は、確か「・小伝」と名付けていた、その社長は謙遜の意味で名を付けたのだろうか。

だが、ゴブにそのような知識はなかった。自分は”小”でしかないのか、と怒り始めた。ゴブの辞書には謙遜という言葉は存在しなかったし、漢字を見ても読むことも出来なかった。ついにゴブは三つの候補を選んだ。すなわち、ゴブ外伝、ゴブ伝、ゴブの物語、である。彼は「正伝」と言う言葉を知っていたら、確実にそれを選んだであろうし、「外伝」に至っては一体何が正伝なのか、という問題に直面するが、彼はその問題に気付くまでに三日を要した。その間、彼は食べ物が喉を通らず、水しか飲む気になれないほど悩み抜いた。

彼の頭にはその自伝がベストセラーになり、テレビやラジオに出演する自分の姿が浮かんだ、その場面では、「この題名は学生の頃から決めていたんです！」を言うことにした。

さらに彼は人生についての哲学を新しく夢を見ている青年たちに教える役割について深く考え始めた。彼は長い長い演説文を練り始めた。そして、二三行書いたところでネタに詰まった。

気分をひとまず切り替えることにして、彼は夕日を窓から眺めた、彼はそのときすでに日米欧に拠点を置く複合企業体の主の気持ちになっっていた。

そして、彼のサクセスストーリーが今始まったのだそうだ。

## 成功論との出会い（前書き）

ここに、冴えない受験生山田太郎がいた、彼は何をすれば立派で有名でテレビに出られる様な人間になれるのかさっぱり解らなかつたが、自分はその才能があるかどうかだけは信じていたし、才能を信じること以外の何事も行なわなかつた。だが、彼は改心する。成功論大全という偉大な書物を前に。

## 成功論との出会い

山田太郎、この平凡な、あまりに平凡すぎて非凡な名前の男がいた、この物語は、彼がゴブと呼ばれる伝説的存在に至るまでの経緯である。

八月の終わり、彼は同級生に会うたびに憂鬱になった、多くの同級生は今年の春に遠い遠い夢のような大学と呼ばれる所に行ってしまう、彼だけが家で寂しく机に向かっていたからだ。

机に向かっていているのは良いのだが、二月ほど前からノートの一ページも進んでいないのは、当の本人も気付いてはいない。ラジオの電池だけが、闇雲に消費されていく。とりあえず親戚で唯一国立大学を出た叔父の話、そう、この叔父は参考書が折れ曲がり、ふくれあがるまで勉強し、ついに現役で国立に通った、という話しを何度も何度も親から聞かされていたので、とりあえず彼は参考書全てに折り目を付け、ふくれあげてから入試に挑んだのだが、なぜか不合格の通知を受け取ってしまった。

そして、彼は未だにその本質的理由に気付こうとも、気づきもしなかった。

彼はとりあえず参考書を折り曲げるときに全文章を眺めていたので、とりあえず勉強したつもりにはなっていたからだ。

そのような彼が、次に参考書を買えばさることになるのは、もはや誰の目にも明らかなことだろう。そして彼はその予想通りに本屋へ向かった。

彼は歯を食いしばりながら漫画と週刊誌の本棚を通り過ぎ、ようやく参考書の所にたどり着こうとしたときだった。彼の目に恐るべきタイトルの本が目に入ったのだ。

「成功論大全、人生の勝ち組になる方法」

かれは、そのタイトルを鼻で笑いながら、参考書の棚に向けて三歩ほど歩いた、彼の足はそこで止まった。彼はそこで五分ほど立ちすくんだ。彼のあまりに鈍い頭脳が未だかつて無い速度で回転しながら、彼の足をその本の前に向かわせた。

黄金の固まりのような表紙、不気味なほどまでに太字の筆字体で書かれたタイトル、それら全てが山田の知っている価値の尺度の上で最大の値に位置した。彼は、勝ち組と呼ばれる人々を思い浮かべた。テレビに出ている人だけがプカプカ思い浮かんだ、それだけで山田は胸いっぱい希望いっぱいになった。

彼は、その仰々しいタイトルの金色で縁取られた仰々しいカバーをめくりながら、とりあえず三十ページ目辺りを開いてみた。そこには、”受験なんて関係ない、あんな物で人間の能力を測れるはずがないのだ”と書いてあった。

山田は、次のページをめくった。”日本は世間体ばかりを気にしていて権威主義でだめだ、男ならば一度勝負に打って出るべきだ”と書いてあった。

山田は、本の背表紙を見た、値段を確かめるためだ。そして山田は自分の財布の中身がこの本の値段とほぼ同じという運命的出会いを果たしたのだ。

そうして、山田の運命は決まった、翌日山田は家にあった全ての参考書を古本屋に持っていき、勝手に渡米を決めたのだ。

「俺は、日本では認められなかったがアメリカの様に大舞台ならば認められる！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2104b/>

---

ゴブ伝

2010年10月28日07時15分発行